

第5回 苫小牧市中小企業振興審議会要旨

1 日 時 令和2年8月19日(水) 13:30~14:20

2 場 所 苫小牧市役所職員会館3階 304会議室

3 出 席

(1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員

秋山委員、遠藤委員、太田委員、尾崎委員、西山委員代理加藤氏、須田委員、高橋委員、平井委員、吉川委員、渡辺委員、綿貫委員

※伊藤委員、坂本委員、多田委員は欠席

(2) 事務局(市)

産業振興室 : 白川室長

企業政策室 : 早崎室長

商業振興課 : 小泉課長、新田主査、長谷川主査、朝倉主事

工業・雇用振興課 : 木澤課長、齋藤主査、今井主事、小野寺主事

4 概 要

(1) 開会

・苫小牧市中小企業振興審議会開会(セブン-イレブン・ジャパン西山委員の代理で加藤氏が出席することにより、委員14名中11名出席、苫小牧市中小企業審議会規則第4条第2項の規程による審議会開催の定足数を満たしている)

・高橋会長より、新型コロナウイルスに関する影響にて審議会の開催が遅れたことのお詫びと、今後の中小企業の在り方について、討論を行い、貴重な意見を賜りながら会を進行させていきたい旨、挨拶。

・事務局より、川島委員の退任(有識者枠は現在2名の委員が在任のため、補充はしない)と、事務局の人事異動による新体制を報告。

(2) 議事

ア 第4回各部会の報告等について

(ア) 創業促進・事業承継部会 遠藤部会長より。

3つのキーワードを選定。

・人材の発掘

企業再生請負人をつくる。同じ波長の人が集まって、高齢者や若手が集まり活躍できる場を作る。

・多くの人が集まる場所の必要性

創業支援センターの創設。人が集まり情報が得られる場所をつくり、街並み再生とにぎわい創出につなげる。

・情報の収集及び情報共有の推進

子供や若い学生、主婦、シニア等、様々な層が集まり情報を共有出来る場所を作る。

今後このテーマに沿って、部会議論を進めていく。

(イ) 人材確保・育成部会 秋山部会長より。

- ・最近の学生は苦小牧の企業を知らず、トヨタ、王子についても4分の1程度しか知らない。
→高校生の職業観、採用プロセス、継続雇用でないと就職担当の紹介が無く、ハローワークでの職探しはしていない。
- ・仕事内容の不透明感、採用方法の多様化、求職者ニーズが複雑。
- ・各企業の人材不足、それに伴い縮小、廃業となり、活気が失われ公共サービスの低下、その先は市民の税負担増。

(ウ) 販路拡大・需要開拓部会 渡辺副部会長より。

3点について。

- ・補助金の活用について
- ・セミナーの活用について
※成功例は発信するが、失敗例を活用する事で大きな効果が出るのでは。
- ・参加者自身がどう関わっていくか
※主催側、参加者側それぞれのニーズを捉え、ギャップを埋めていくことで、そもそもの目的達成となる。

今後このテーマに沿って、部会議論を進めていく。

-----質疑なし-----

○高橋会長

三本柱、それぞれの課題についてブレインストーミングを通じて活発な話し合いが進んでいると思うが、コロナの影響を、今まで話してきた内容に加味して考えなければいけない。今年の求人に関しても厳しい見方をされている話も聞いている。大学生が市内に戻りたくても、なかなか就職先が門戸を開かない等の懸念がある。皆さんの意見も聞きたい。

○渡辺委員

高校生の求人は、1人当たり10件から5件位に少なくなるだろうと聞いており、中小企業としてより優秀な人材を確保するのは一層の努力が必要。コロナでは、販路拡大部会で補助金の話をした中で、困っている方が情報を集める意欲が非常に高まっており、行政も発信を非常に多く行っており、今までの成果が広がってきている感じを率直に受けている。

○高橋会長

創業促進に関して、今だから必要とされる職業やサービス業が増えている話をよく聞く。対面型ではなくリモート型、飲食でもスマホで注文や決済が出来る等、これを一つの契機として、新サービスや創業促進に新しい流れが来るのではないかと思う。

事業承継については、後継者がいなくて閉店せざるを得ないケースが増えていると聞く。一方でここ2か月間で4件もの飲食店の新規創業がある。そういう情

報を本当に集めれば、今後の流れに繋がり、我々から新たな提案もできるのではと思う。部会の中でも情報提供やご意見をたくさん頂き、審議会にいい形で繋げていきたいと考える。

イ 市の施策の進捗について（中小企業振興計画別冊）

・事務局より、中小企業振興計画別冊（資料1）について、新事業が2つ増えて全部で52事業になった事と、昨年度実績が記載された事を説明。中小企業振興計画別冊コロナ施策（資料2）について、計画とは結び付かない中、中小企業に関連した事業として別にまとめ、ホームページにアップする事を説明し、内容チェック、確認、意見を求めた。

----- 5分ほど内容確認し、質疑-----

○秋山委員

事業番号46店舗改装費補助事業について、営業継続の年数が長くなると、古くなったりニーズに合わなくなったりするので、補助利用を一度きりではなく、3～5年経過すれば再度補助金を利用出来るような仕組み変更は出来ないものか伺いたい。

○事務局

幅広く、多くの事業者に使っていただきたいという考えなので、現状では難しいが、今後の検討ということは継続していきたい。

○秋山委員

現状、中心部でも9月いっぱい閉店するところも出てきている。大型店が占める売り場面積が、30年前は約50%だったが5年前は92%、今はさらに上がっている。それは、零細、小規模の小売店舗が減っていることで、一年でも長く営業していただくような支援策が今後もっと必要になってくる。

○事務局

ご意見を伺った。短期的にはプレミアム商品券の発行があり、今後もコロナの影響も意識しながら、検討してまいりたい。

○遠藤副会長

プレミアム商品券の現状ですが、取扱店が現在550店舗、目標1,000店舗ということで9月16日利用開始に向けて努力しているところ。

別の意見として、今回コロナ関係でたくさんの事業にて対応いただいている中、予算額に達して早い時期に申請終了となり、利用出来なかったという事業者もいたので、増額等の対応を柔軟にさせていただけたらと思う。

市と会議所で協力して行っている創業サポート事業ですが、7月29日開催の創業セミナー出席者が40名となっている。これらの方々が創業に至る際は、柔軟に対応いただきたいことを要望したい。

○高橋会長

活用方法を知らないと利用に繋がらないとか、活用方法を分かっている人が有益に繋がる等があるので、発信をしっかりと行うとともに、地域経済を回すことにつながるので、ぜひ店舗登録をお知り合いの事業者にもお願いしてもらいたい。

○須田委員

プレミアム商品券の利用店舗一覧にて、事業所の名称では取扱品目が分からないので、一覧表の中に取扱品目を追加できると、どんなお店なのか分かりやすいと思う。

○事務局

事細かく表記することで、分かりやすくなることは承知するが、これから1,000店舗を超えることで可能な限り少ない枚数で、市民の方が日々利用している店舗が登録されてるか、無ければそのお店に登録を勧めてもらえるような流れで一覧表を活用頂きたい。

ウ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響について

・事業内容と一度離れて、現状の新型コロナに関する影響を情報共有した。

○平井委員

市内事業者の中でも特に飲食、バス事業関係、美容室・理髪美容関係。7月末で取り扱っているコロナ関連融資が800件越え、120億円越えという状況。保証協会の保証も1,500件越え、320億円越えといった状況。書類の簡素化等もあり、12月末までにはもっと増えると思う。

ここ最近では建設業の融資申し込みが増加し、この2ヶ月で100億円超の融資を実行しているのはここ近年無い状況。3年間返済不要や無利子等、今後の制度自体の方向性に注視していく。

○尾崎委員

胆振管内で活動している中、市内より登別、洞爺の観光客をメインにしてる飲食等事業者から、外国人含めて一切お客が来ないと聞いている。建設業でも今まで受けていた仕事以外に民間の仕事がどんどん減っている話を聞いている。

○綿貫委員

医者、個人病院等、外来患者の減少で収入減となっている。建設業の下請業者は、元請から現場に入らないでほしいと言われて仕事が無くなったという話を聞いている。

○高橋会長

コロナの影響は多岐に渡り、お付き合いの関係で知るところ、知らないところ、たくさんある。コロナの問題も非常に大きく、5期に向けて意見や部会の内容も

踏まえて、変更すべきところは変更する形をとる必要がある中で、皆様の御協力を頂きながら進めていきたい。

エ 第4期の今後の方向性について

- ・事務局より、参考資料をもとに別冊で示している計画に沿った施策のチェックを頂き、コロナの影響をどう取り扱っていくのか議論を進め、報告書をまとめていく過程に入る事を説明。
- ・ブレインストーミングで議論した具体的施策が4期の実行案、話し合いの中で上がってきた課題や問題点を5期への引継ぎ、コロナの影響は別項目で引継を行う形を提案した。

(3) その他

- ・会長より、審議会終了後の各部会開催場所及び次回の審議会を11月25日に開催する旨の報告があった。
- ・事務局より、販路拡大・需要開拓部会について、欠席者多数のため別日に開催することを報告。

(4) 閉会